

平成 26 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会 第 1 回委員会 議事録

1. 日時：平成 26 年 7 月 11 日(金)10:00～11:30

2. 場所：アカデミー茗台 7階 学習室A(東京都文京区春日 2 - 9 - 5)

3. 出席者：

委員長	菅野 育子	愛知淑徳大学 (SC9 リーダ)
委員	松田 稔広	国立国会図書館収集書誌部 (SC9 リーダ補佐)
	原田 智子	鶴見大学
	木俣 洋一	一般社団法人日本出版インフラセンター
	追川 正人	一般社団法人日本音楽著作権協会
	秋元 良仁	凸版印刷株式会社
	畑陽一郎	一般社団法人日本レコード協会
	駒崎 武一	一般社団法人日本映像ソフト協会
	丸山信人	一般社団法人日本雑誌協会
	千葉孝義	経済産業省産業技術局国際電気標準課
事務局	光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会

(敬称略・順不同)

4. 配布資料：

- (資料 1) 平成 26 年度実施計画書
- (資料 2) 2013/12/9 以降 ISO/TC46 投票済案件と審議案件
- (資料 3) ISO/TC46/SC9 ワシントン総会報告
- (資料 4-1) ILII 資料(プレゼンテーション資料)
- (資料 4-2) ILII 資料(NWIP 提出用書式案)
- (資料 4-3) ILII 資料(WD 文書案)

5. 議事：

冒頭、新メンバーを含め各委員から自己紹介を行った。その中で、経済産業省の委員が前任の亀山氏から千葉氏へ、国立国会図書館の委員が柴田氏から松田氏に交代した旨が報告された。

1) 平成26年度実施計画書について

資料1を元に事務局・光富氏より報告を行った。

ISO/TC46全体の事業目的と平成26年度の目的について資料に沿って説明。今年度は

特に、国際図書館資料識別子 (ILII) を国際規格として提案することが大きな活動の柱であり、2014年5月のTC46総会、各SC会合への委員派遣、総会の場におけるプレゼンテーションの実施とそれに続くNWIPの提案を予定している。また、国際標準化活動として、本委員会及び4つのSC (SC4、SC8、SC9、SC11) において国際電子投票案件の審議及び投票を引き続き実施する旨を説明した。

菅野委員長より、ワシントンでの総会においてTC46/SC10委員会を平成27年度より日本でも立ち上げ、参加する予定であることを報告した。また、今年度のSC9委員会スケジュールとしては、第2回の委員会開催を昨年度の時期(1月)よりも若干早める予定である旨を報告した。

資料1別添の規格要約票について事務局より補足説明。ILIIをSC9から提案することに伴い、SC9でも今年度より本資料を作成した。全体事業計画に記載された平成26年度の目標は、附属のマトリクス表における10.20(新規プロジェクトの投票開始)である。同様に、平成27年度は30.20(CD検討/投票の開始)、平成28年度は40.20(DIS投票の開始:5ヵ月)を目標とし、ILIIの国際規格化に向けて着実に進めていきたい旨、報告された。

2) 平成26年度ISO/TC46/各SC 9 投票報告と審議案件について

資料2を元に菅野委員長よりSC9投票済み案件(5件)と審議案件(1件)について報告した。

- SC9に関係のあるものは、NO.23～28。

- NO.23 ISO/DIS17316

新しい識別子(国際標準リンク識別子 ISLI)に関する中国からの提案。資料本体+音源資料のように、物理的な資料同士のリンク付けに関する規格。日本からは賛成(Approval)した。FDISの投票で承認が得られなかったが、再度提案することで国際規格化にこぎつけそうである(NO.28がFDISの投票案件)。

- NO.24 SR ISO999:1996

- NO.25 SR ISO5963:1985(vers 4)

- NO.26 SR ISO15706-1:2002(vers 2)

- NO.27 SR ISO21047:2009

それぞれ回答内容について説明された。SRについては、議論の中身が開示されるよう、ISO Directivesが改訂された。ISO TC46/SC9は古い時期に策定された規格を多く抱えており、紙資料を前提とした内容となっている。そのため、見直し時にNWIPから再提出となる形が増えており、中身の議論をしっかりと行い、その内容を理解したうえで投票が行われるようDirectivesの改訂が行われた。最新版は日本規格協会のHPに掲載されている。

•NO.28 ISO/FDIS 17316

NO.23記載のFDIS。日本は賛成の予定。締切日は8/25。

3) ISO/TC46ワシントン総会報告

資料3を元に菅野委員長より報告。主な報告内容を抜粋。

•SC9 ad hoc ID interoperability group

総会に先立って2014/5/3に行われた、Linked Content Coalition (LCC)に関する報告。LCCはデジタルコンテンツの著作権処理を迅速に行うための組織であり、その目標は最終的にはデジタルコンテンツを正当に利用できるようにすることであり、ここには不法利用の排除を含意している。

LCC Frameworkとは、異なる著作権関連データ(多様なコンテンツやメディアが対象)を統合するための計画であり、ライセンス契約やロイヤリティ徴収にも役立てられる枠組みであるという説明があった。

LCCの立場については、法的な動きにも商業的な動きにも中立であり、デジタルコンテンツが商業的なものであっても、図書館・博物館・文書館などによる文化的なものであっても同等に扱うとのことであった。これは、ISO/TC46が文化的な活動を尊重していることから、LCCもMLAを意識していることをアピールしたものと思われる。

追川委員より、CISAC(著作権協会国際連合)がLCCに加盟する見通しである旨が報告された。

なお、もう一つのad hoc groupの会議は解散となった。

•ISO TC46/SC9 総会

SC9総会は2014/5/8に米国議会図書館(ワシントンD.C)で開催された。日本からは菅野委員長をはじめ、SC4リーダ宮澤委員長、SC4橋詰委員など計4名が参加した。

○活動中のWGとad hoc groupについて

WG2:International Standard work code(ISWC) 定期見直しの結果、改訂作業準備中

WG4:International Standard Book Number(ISBN) 定期見直しのWGを2014年3月から開始している。ワシントンD.C滞在中に菅野委員長から木俣委員に電話で確認や情報交換等を行い適宜対応した。他国ではSkypeで参加したメンバーもおおり、次回はその形式も検討する。

WG10:International Standard Recording Code(ISRC) ISO3901改訂のNWIPが2013年11月に承認され、2014年1月からWGが開始。WDコメントに対する回答が配布された。畑委員より補足があり、電話会議等で検討が進められているが開催時間が日本時間で夜中となり、参加が難しい場合は議事録等で確認している、現在のところ大きな変更点はないと理解しており、DISステージに向けて対応を準備中とのことであった。

WG11:International Standard Link Identifier (ISLI) 2014年1月3日締切のDIS投票でコメントがあり、FDIS投票を省略できず、改訂版FDISを準備中。登録機関の提案は間もなく実施。

○ISO中央事務局からの報告

ISO Directivesの内容が変更になった。WGのコンビーナの任期が3年となったこと、規格の作成年数(target date)の考え方が変更になったこと、国際規格の定期見直しが5ヶ国にとって必要であればOKとなったこと、などが主な変更点。中央事務局のTC46担当者が不参加だったため、出席者からは中央事務局担当が参加して説明すべきとの意見が多かった。

○定期見直しについて

- ISO15706-1:2002 ISAN

2ヶ国が改訂予定だったが、2013年は改訂せず。

本規格の改訂についてはアメリカから「ISANとEIDRの連携を図るという方針が出されていたが一向に連携の協議を始める動きがない」といった批判的コメントが出されていたようだが、この件に関して特に報告や進展はなかったか？改訂なしについては特に問題ないと思われる。

○登録機関からの報告

- ISO 10957:2009

ISANはアジアなどで拡大しているとの報告。

→実態としては、全体の51%が欧州、米国が45%、アジアは4%に過ぎない（ISANが公表している資料としては最新の2013年5月のデータ）。アジアで拡大しているという状況は感じられない。（駒崎委員）

○今後の案件

- International Library Item Identifier (ILII)

日本・宮澤委員による発表。詳細は4)を参照。

カナダからは「ISILはアーカイブも含んでいたか？」という質問。伊、英、米から賛成意見。米から「born digitalはitemではないが含めるのか？」という意見があったが、まずは図書館資料を対象とする物理的な単位での識別子と認識された。

○決議

- Resolution2014-4 今後の定期見直し(Systematic Review)

総会に先立ち、識別子登録機関と当該規格の定期見直しを行うべきかを検討するために、登録機関(RA)に意見を求めるものとするのを承認。2)で記載のとおり、変更内容をよく理解して投票を行えるようにするための見直し。

•note(覚書)

正式な決議内容ではないが総会で議論されたことを記す、という形で宮澤委員の発表を取り上げ、SC9からJISC(日本)に対してNWIPを提案するように求める旨が記載された。

このような形式で総会において取り上げられるのは初めてのことであり、宮澤委員の尽力の成果と言える。

○最後に

日本から提案したILIIについて、総じて好意的に受け入れられた。SC9決議文においてNWIPの提案を促されたことも、今後の展開に期待が寄せられていることの現れと言える。口頭ではあるが、会議の場で韓国やイタリアからエキスパート選出の言質を得たので、日・米を加えノミネーション(5ヶ国必要)に必要な残り1ヶ国を確保できるよう、引き続き調整する。

4) 国際図書館資料識別子 NWIPについて

資料4-1、4-2、4-3を元に菅野委員長より説明。

資料4-1は、ISO TC46/SC9総会において説明に使用したプレゼンテーション資料である。ILIIの概要やメリットが分かりやすくシンプルにまとめられている。有体物である図書館資料を対象とした識別子であること、既存の規格(ISIL・ISCI)と各機関の管理体系を組み合わせる形式にすることで、新たな登録機関を設けずに統一的な資料のデータ管理体系を提供できることなどが主な内容である。資料4-2、4-3は、5～6月に開催したSC9WGの中で内容を検討したILIIの提案文書案である(4-2がNWIP文書案、4-3がWorking Draft文書案)。内容を最終確認中であり、確定すれば事務局から日本国内のISO TC46事務局に送付し、そこからISO事務局と議長国に送付する予定である。

○主な質疑内容

ILIIは、ISILまたはISCIとローカルなアイテムIDの組み合わせということだが、ローカルIDの自身については可変長とし、桁数等を規定しないという理解で良いか？

ローカルIDは、各館が独自に管理しているID体系をそのまま使用することを想定している。例えば、資料4-1で例示された資料(国際子ども図書館所蔵の『ぐりとぐら』)だと13桁の資料IDを使用しているが、他館が13桁以外のIDで資料を管理していても、それを使用してILIIに参加できる。

ILIIの物理的媒体への番号付与手法は、RFIDやシール等、多様なものを想定しているのか？元々RFIDの規格として検討してきた経緯もあり、基本的にはそうだと考えている。ただ、まずはILIIフォーマットを議論すべきであり、具体的な付与方法等は今後の課題と考えている。

ILIIの枠組みだと、同じ資料でも所蔵する館が異なる場合、別のIDを持つことになるが、問題

ないか？

ご指摘のとおり所蔵する館が異なる場合、同じ資料が異なるIDを持つ。これは、例えば図書館間貸出し等のサービスで、同じ資料を自館で所蔵するものか、他館で所蔵するものかの判別等に利用できると考えている。

有体物についてはそのとおりだが、デジタル資料をILIIの対象にした場合、所有の概念も有体物とは異なるため、判別が難しくなるのではないか？

そうした問題があること自体はWGでも議論があり、認識している。所有権の無いデジタル資料(契約している電子ジャーナル等)は除外することとしているが、それ以外の扱いについては決定していない、

まずは有体物を適用対象とした提案内容としたため、今後NWIPが承認され、WD案を元にした議論の中で、適用範囲にデジタル資料を含めるかどうかを検討する段階では整理が必要と考える。

図書館における相互貸借では雑誌の1記事などはコピーでやり取りをすることがあるが、そのような場合のILIIはどうなるのか。また図書館では雑誌を製本して保存することがあるが、そのような場合は、未製本の場合のときのILIIとどのように区別されるのか。

詳細は確定していないが、原則として各館の管理の体系に沿う。例えば、製本されることで管理IDが一つになるのであれば、そのIDがILIIの管理するアイテムとなる。

質疑後、菅野委員長からNWIP提案に関して確認を行い、異論なく了解された。

(以上)